

学習意欲を高める 体育学習の充実を 目指して

鳥取県鳥取市立醇風じゅんぷう小学校

全校児童数	300名(男子139名 女子161名)		
全クラス数	14	教職員数	24名(内体育専科0名)
クラブ活動または運動部活動	5	参加延べ人数	78人
地域の外部指導者の活用(年間延べ人数)			0人

取組時の課題と目的

Plan

1 取組時の課題

本校は全体的に見て、運動能力に優れているという児童が決して多いとは言えない。クラブ活動に所属したりスポーツ教室に通ったりしている児童は多いが、それぞれの種目に特化した能力に限られている。また、各シーズンに力を入れている水泳や陸上といった運動の能力を高めることはできているが、ボール運動、器械運動等の領域については、課題をもつ児童が比較的多いと言える。

特にボール運動については、地域の公園でボールの使用が禁止されている場所も多く、その経験が不足していることも要因の一つであると考えられる。このため、運動中のコミュニケーション能力にも課題が見られる。また、子供たち自身で遊びや運動をつくり出す経験も乏しく、自分の動きに課題を見つけたり目標をもったりすることが苦手の児童が多いと考えられる。

2 取組の目的

- ①運動の特性を踏まえ、児童が運動の楽しさや喜びを味わいながら、基本的な動きや技能を身に付け、体力の向上が図れる体育学習を展開する。
- ②安全に留意しながら、施設・用具を効果的に活用し、運動に親しむ資質や能力の基礎を養う。

取組の内容

Do

1 授業づくり

(1) 単元計画

個々の体力や技能を高めることができるように単元構成をしている。特にボール運動やゲームといった領域では、それぞれの運動が最終的に試合として実施できるようになるために、段階に応じたゲームを行う。まず個人技能を習得するためのゲーム、次に習得した技能を使って行う戦術的なゲーム、それまでに培った力を発揮して行う集大成のゲームと、ルールや場の設定を変えながら取り組んでいる。

(2) 目標の設定とふり返り

個人またはグループの目標をもたせるために、学習カードを活用している。学習に意欲的に取り組むことができるだけでなく、その時間のふり返りから次時の目標設定につなげることができる。学びの足跡を形として残していくことで、自分の変容を視覚的にとらえることができ、さらなる意欲の向上につなげている。

2 体育的行事の実践

市、県レベルで行われる水泳大会、陸上大会等に積極的に参加し、それに向けての練習を放課後に実施することで、個々の目標に応じて体力の向上を図っている。高学年の児童は水泳か陸上のどちらかの練習に必ず参加することになっている。他学年の児童の参加も認めている。

3 各種カードの活用

水泳、マラソン、なわ跳びの取組については、それぞれの運動の目標となるカードを作成し、活動の意欲を高めることができるようにしている。

●工夫したこと

- ①運動に熱中できるようにするために、用具の工夫をした。児童自ら用具を作ることで運動への興味・関心を高めたり、より抵抗の少ない用具を使用することで恐怖感を減らして、思いきり活動できるようにした。
- ②単元ごと、毎時間ごとに学習カードを作るのは相当の労力を必要とするため、副読本を活用した。簡易な目標設定や学習のふり返りができることはもちろん、運動のコツやポイントを知ることもできた。

取組の成果

Check

- ①体育の授業が楽しいと感じている児童が多く、その理由として、技能の習得や体力の向上だけでなく、学習の中で友達と協力することや指導に対して満足している児童が多いと言える。
- ②自分のめあてに向けて練習の場等を選んでいるという設問に対する肯定的評価が高いことから、教科外での運動機会に積極的に参加していると言える。
- ③1週間の総運動時間が420分以上の割合が男子で80.0% (全国54.6%)、女子が38.5% (全国26.7%)という結果で全国平均を大きく上回っており、男女ともに進んで運動していると言える。

今後の課題

Action

- ①運動やスポーツをすることが得意である、好きだと感じている児童に男女差が見られる。女子に焦点を当てた取組が必要であると考えている。
- ②学習カード等、授業で使えるものを学年、領域等に分けて保存し、学校の財産として共有することで、より有効活用することができると思う。

